



「この子はどこにうまくできているのかな」「どうやってできるようになるのかな」ということを想像していきましょ



田中康雄先生の著書『発達障害の子どもの生活の工夫と伸ばす言葉かけ』からシリーズでお届けしている「子どもの生活の工夫」6回目の今回は「これくらいはできるのでは…」と思うことができませんに

その子の得意な学び方で、できることを増やしていきましょ

自然にいろいろなことを覚えていくタイプの子と、具体的に少しずつ教えてもらう方が覚えやすい子、耳で聞くほうが理解できる子や、目で見たほうが理解しやすい子など、覚え方や学び方は子どもによって異なります。その子に向かない覚え方をしている場合は、叱ったからといってできるようにはなりません。その子に合う「こうすればうまくいく！」という成功体験を増やしていきましょ。

◇その子に合う学び方を探しましょ

自然に覚えて、パッとできる子もいれば、具体的に何をすればいいのか、少しずつ教えてもらうほうが得意な子など、覚え方はひとりひとり異なります。

自然に、パッとできるようにならない子には、お家の人



「この子はどこにうまくできているのかな」「どうやってできるようになるのかな」ということを想像していきましょ。子どもは必ず成長しますので、「今できない」ということが、「この先もずっとできない」ということとイコールではありません。ただし、そこには工夫や支援が必要です。得意とするポイントも、苦手とするポイントも、ひとりひとり異なります。苦手なことを得意にするのは難しいことです。苦手なことは周囲に人や道具の助けを借りながらできるようにしていけばいいと思います。

具体的にない指示はわかりませ

「明かりをつけて」と頼んで、「つかない」と答えたので、見に行くと関係のないスイッチを一所懸命操作していたり、どこの明かりをつけてよいかわからずにとまどっていたりすることがあります。話の流れで自然にわかるだろうと思いがちですが、できるだけ具体的に「このスイッチを押しして」「この部屋のあかりをつけて」と伝えてあげないとわからない子もいます。

◇その子に合う方法で「できた！」という経験を重ねましょ

支援や工夫が必要な子どもは、放っておいては自然にできるようなことはありません。その子の学び方に合うような工夫をしながら、「こうすればうまくいく！」という経験を重ねていきましょ。例えば、靴や上履きを左右逆に履いてしまいう子には、靴や上履きの方に工夫してみましょ。それでも、左右逆に履いてしまいうことがあっても、「このマークをよく見て履こうね」と、根気強く言葉かけしていきましょ。「マークをよくみればはける！」ということが理解できるようにになると、自信もついてきます。できたときは「で

<p>① やっばり、ぎゃく？</p> <p>また、はんたい…かな？</p>	<p>② 中敷きに、テープで保護！</p> <p>中敷きなら消えにくいし、テープでさらに安心！</p>
<p>① 左右が分からず、つい反対に履いてしまいうさん。自分では気づけません。</p>	<p>② 【改善点】靴底ではなく「中敷き」に貼り、剥がれないよう「透明テープ」で補強します。</p>
<p>③ 「1週間できたね！」の約束</p> <p>すごい！1週間つけて、自分でできたね！</p>	<p>④ 次のステップへ挑戦！</p> <p>こんどは、この小さなマークで、やってみる！</p>
<p>③ 【改善点】「1週間連続で、声かけなしでできた」という明確な「次のステップへの条件」を決めます。</p>	<p>④ 条件をクリアしたので、手がかりを小さくしてフェードアウト。スモールステップで自信を育みます。</p>

きたね！」「やったね！」と思い切りほめましょ。

◇誰かに助けを求める方法を学ぶことも大切ですが、わからない時や困った時は、そばに

にいたる大人に「教えてほしい」「困ってます」ということを伝えられるといいのですが、自分の気持ちを伝えることが苦手な子どもは、誰かに助けを求めることが苦手です。相手の気持ちを想像することが苦手な子の中には、過去に誰かに質問をして叱られたことが記憶に残り、聞いたら怒られるのでは…と思いついていない時は、絵カードが役に立ちます。「コミュニケーションカード」を見せることで、自分が困っていることが相手に伝わりやすくなります。



辺見妙子